

# AM普及へ産学官連携

東北大、JAAM

## オンライン講演会開く

東北大と日本アセット  
マネジメント協会（JAAM、  
小林潔司会長）は「地

域のアセットを守り、その価値を高めるために」と題した講演会を、23日にオンライン形式で開いた。JAAM産学官連携小委員会の委員長を務める久田真東北大大学院教授が基調講演し、インフラの資産価値を最大化するアセットマネジメントの考え方を普及していくために産学官連携の重要性を訴えた。

久田氏は基調講演で、インフラアセットマネジメントの有効性について「インフラを維持管理するだけでなく、資産としての価値を見出し運用することで新たなビジネスチャンスを生み出す可能性が広がって

る」と強調。インフラの大部分を管理している公共機関を念頭に、「高度な合理化手法を導入することにシフトしていったほしい」と呼び掛けた。

インフラアセットマネジメントの進め方については、これまでに多くの市町村の橋梁長寿命化修繕計画策定に助言してきた経験を踏まえ提唱。あらゆる分野でデジタル化が進展し、建設分野やインフラ維持管理での新技術やデータの活用も進む中、「市町村だけでなく、国や県、建設コンサルタントに相談するなど、産官学それぞれを持ち味を生かし、相乗効果を出していくことが重要だ」と訴えた。

この後、アセットマネジメントの実践をテーマに水谷哲也仙台市下水道計画課長や水谷大二郎東北大大学院助教、猪爪一良JAAMインフラマネジメント実践小委員会委員長（オリエンタルコンサルタンツ関東支社アセットマネジメント推進部長）が講演した。

締めくくりでありさつした来賓の梅野修一東北地方整備局長は「いろいろな分野でアセットマネジメントをやっていく自治体が増え、成功事例が増えて日本全体に広がってほしい」と話した。